

SDGs～持続可能な取組～

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



歴史文化遺産から学ぶSDGs探究活動

奈良県立添上高等学校

人文探究コース1年

探究実践

めあて

大学との共同活動を通して、SDGsの視点から歴史文化遺産について学ぶとともに、探究活動を行い、次の学びにつなげる

奈良教育大学との高大連携事業として、ESDをベースにしたSDGsの達成など、新しいテーマで探究活動を行いました。大学の先生の指導のもと、東大寺とならまちの2グループでフィールドワークを行い、学んだことを互いに発表しました。SDGsの考え方がない時代から、持続可能な文化遺産として続いてきた東大寺やならまちを、SDGsに関する取組を実践してきた身近な成功例として捉えることで、自分たちの町や暮らしを持続させていくためのヒントを得ました。

☆東大寺

東大寺では、大仏造立や修繕の経緯をSDGsの視点で読み解きました。例えば、大仏は疫病の終息や平和を祈って造立されています。これは、SDGsに照らし合わせると、目標3や目標16に合致します。また、大仏殿の柱は、細い木を組み合わせて修繕されています。これは、目標15に合致します。このように、SDGsで掲げられている目標は、近年新たに生まれた発想ではなく、文化遺産の中にも見いだすことができるという視点を得ました。



また、実際の大仏を前に東大寺の方から大仏の作り方や修理の方法など、お話をさせていただきました。お話の中にもあったように、東大寺を持続可能にしてきたのは、後の時代に東大寺を残したいという人々の思いだと学びました。

生徒は、人々の思いが持続可能な行動の原動力に繋がることに気づき、SDGsの目標の背景にある自分たちの生活の中で未来に残していきたいもの、守りたいものを考えるきっかけになりました。



☆ならまち

ならまちでは、まず元興寺を訪れ、ならまちがどのような経緯で形成されてきたかを学びました。そして元興寺やならまちがいかんして長い年月を乗り越えて保たれてきたのか、SDGsの視点で観察を行いました。フィールドワークでは目標11に関わって、ならまちでは古くから地域住民の連帯が強く、それらが持続可能なまちづくりに寄与してきたことなどを学びました。

そこから、都市や町が時代を超えて人々を繋げていく機能を持つことや、それらを持続可能なものとして未来に残していくためには、地域住民自身の地域社会への積極的な参加が必要だといったことを学びました。ならまちの元興寺や庚申堂のように、自分たちの暮らす町を持続させていきたいと思えるような魅力を探したり、作り出したりしていきたいと考えました。

